

萩の郷

No.117

2024.2.8発行

発行者：下市田区

発行責任者：北沢文治

印刷：龍共印刷株式会社

創刊40周年

下市田のおしるこ大人気 高森まると収穫祭4年ぶり出店参加

下市田区は昨年10月21日、町の高森まると収穫祭に4年ぶりに出店参加し、おしるこ無料サービスを行いました。楽しみにしていた町民も多く、ピーク時にはテント前に長い行列ができました。

おしるこ作りは長年、分館長・分館主事が担当。3年間コロナ禍で出店しなかったため経験が途切れましたが、レシピを研究して臨み再スタートできました。支館部員も総出で接客を担当し大活躍しました。約1300食を出して午後2時には品切れに。お客さんからは「濃くて甘い」、「直火で焼いた餅がおいしい」など上々の感想が聞かれました。

さて、下市田区報・館報「萩の郷」は今年1月で創刊40周年を迎えました。昭和59（1984）年1月1日付の創刊号に、当時の林直輔区長は、地域の混住化が進む中で「住みよい下市田を造るためにどうしたらよいか、執行部も苦慮している」としつつ、「意見や苦情をお寄せいただき、紙面を通じてふれあいを持ち」、「明朗な区政、明るい地域づくりは区民みなさんの手で、知恵で、みんなの努力で築いていくべき」と、その思いを記しています。

40年前から今と同じ悩みがあったことを思い、40年間の歩みを思い、今を思う時、私たちはどれだけ進むことができたのか。でも問題山積はきつと昔も今も未来も同じ。創刊の志を引き継いで、前を向いて歩んでいきたいと思えます。



区の情勢について

改めて防災意識の向上を

区長 北沢 文治

新年明けましておめでとうございます。
うございます。

穏やかな元旦を迎え、萩山神社元旦祭、地区の新年会を終え、正月気分を満喫していた午後4時過ぎ、突然

緊急地震速報の警報音と地震の揺れ、慌ててニュースを見ると能登半島で最大震度7の大地震。この地震により甚大な被害が発生しました。亡くなられた皆様にお悔やみを申し上げると共に、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この高森町でも東南海地震はいつ起きても不思議でないと言われています。改めて地震の怖さと悲惨な情景を思い知らされた正月でした。地区ごとにタイムラインの見直しと検証、防災対策の検討と、個々の防災意識の向上を目指さなければと感じました。下市田区では2月に避難所の開設と運営などについて防災研修会を予定しています。

さて、下市田保育園の改修ですが、現在基本設計・実施設計が進められています。令和6年度には工事を行い、卒園式までに完成を目指す予定です。

今後は2月10日に地元出身の町議会議員との懇談会を開催します。3月の萩山神社春祭りはコロナ禍前のように盛大に実施できるように計画しています。

年度末には自治会加入の85歳以上の単身世帯・夫婦世帯(他に同居者のない世帯)に区より高齢者世帯補助金3千円を支給します。高齢を理由に自治会から脱退するのではなく、地域の皆様と共に自治会の中で助け合って暮らしましょう。本年もよろしく願います。

米寿、卒寿以上
長寿祝い贈呈

今年度は10月に敬老祭の開催を計画していました

が、8月に新型コロナウイルス感染者が急増したため中止となり、下市田区では今年度も



贈呈したLEDライト



新年の始まり、萩山神社に初詣する区民

米寿88歳と卒寿90歳以上の方々への記念品の贈呈のみ実施しました。対象は区費納入世帯または高齢免除世帯の長寿者で、米寿31人、卒寿以上97人、合計128人(今年度から喜寿77歳は対象外となりました)。11月頃、懐中電灯としてもラントンとしても使える災害時にも役立つLEDライトをお届けしました。

代議員研修旅行
三遠方面を視察

旅行幹事 大場 泰司(1区)

コロナ禍で令和2年度から実施が見送られていた下市田区代議員会の研修旅行が4年ぶりに11月19～20日に行われました。

澄み渡った秋の好天に恵まれ、貸し切りバスで愛知県から静岡県方面に向かいました。最初の視察先はNHK大河ドラマ「どうする家康」で注目を集めている岡崎城と併設の大河ドラマ館を見学しました。家康にとってはここ岡崎城を足がかりに天下統一を成し遂げた縁の深い城で、ドラマ放映中ということもあり観光客も多く、大河ドラマ館では主演の松本潤等の等身大パネルと一緒に写真に収まる人もいました。

続いて浜松の航空自衛隊エアーパークを見学しました。館内には国防最前線に配備されている各種航空機が展示されていて、コックピットに試乗しパイロット気分を味わう人もいました。

2日目は日本平を経由し、家康公が祀られ国宝に指定されている久能山東照宮を訪ねました。日光とは違った荘厳な佇まいが印象的でした。

最後に訪れたのは日本最長吊り橋の三島スカイウォークですが、インスタ映えで有名なだけあり、海外の観光客が目立ちました。ここでもそうでしたが、終日美しい富士山を望むことができ、何よりの土産になりました。

研修旅行を通して代議員相互の親睦を深めることができ、今後の自治会運営に活かされるものと思います。



岡崎城の大河ドラマ館で

二年参りの参道 竹灯籠で照らす

「あかりを灯す会」(木下富



参道に並べられた竹灯籠

由代表)は今年度も大晦日深夜から新年を迎える頃にかけて萩山神社参道に竹灯籠を並べ、二年参りや初詣に訪れる参拝者の目を楽し

ませました。

この活動は昨年度まで3年間、下市田区と区民有志でつくる竹灯明実行委員会によって行われてきましたが、今年度から区民主体の組織として新たにスタートしました。二年参りのほか南小学校の夜桜や市田灯籠流しにも参加しています。

11月25日には区民会館で竹灯籠作りを行い、親子などが参加し、用意された竹に型紙を張りドリルで穴を開ける作業を行いました。二年参りでは参道に約



親子で竹灯籠作り(11月25日)

3百本の竹灯籠を並べ、下からはまるで天に昇る竜のように見え、参拝者が感嘆の声を上げていました。

下市田史談会 新春放談会 語り伝えたい三六災害

会長 松上清志

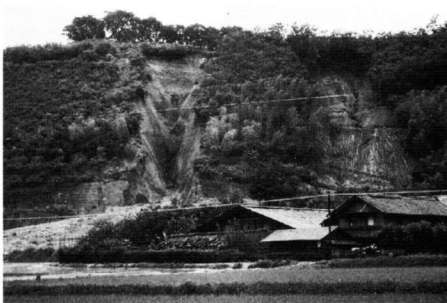
「三六災害」でした。

「南大島川では上流からの流木が洞地籍の竜西一貫水路に絡んで付近に水が溢れ、発破で水路を破壊しろと大揉めした」など木下富由さんの報告で、1月13日の新春放談会は始まりました。区三役と支館三役の皆さんにも参加していただき

23名で、テーマは「昭和36年6月にこの地方を襲った

参加者の多くは幼い頃の記憶ですが、強烈な体験のせいか、鮮明に語ってくれました。その中には、惣兵衛堤防の決壊に関わる話が

多く「堤防が崩れるで、美田をみておけ」と言われた話などがありました。



南小下の大崩落(光沢金良さん提供)

また、南小学校校庭に向かって大丸山方面の雨水が

写真を光沢金良さんが紹介してくれました。一方、大島川の土石流で埋まったJR飯田線・天龍社市田工場・吉田河原一帯の写真も紹介され、水の力のすごさが分かりました。災害の怖い話だけでなく、家の庭に水が浸いたのでタライを浮かべて遊んだという子どもらしい話もありました。また災害後の復旧についての話もあり、孤立した大鹿へ電気を通すための苦労話や豊橋から両親が歩いて帰ってきた話、支



三六災害の記憶を語り合った

援物資の古着が届いたがほとんど着れなかった話、自衛隊の出動状況の話、復旧作業に女性も出て現金収入を得た話、治水工事のおかげで昭和58年水害の被害が少なかった話が出ました。三六災害から60年以上経った現在、その体験をいかに語り伝えていくのかが課題となってきました。この正月に突然襲われた能登半島での地震災害を目にした参加者からは、三六災害の経過やその教訓を伝える大切さだけでなく、防災と水利の関係をいかに整えて備えていくかをまず第一に考えたいとの思いが伝わってきた放談会でもありました。

幅広い世代が交流

特色ある各分館の事業

1区分館

文化交流会

分館長 山本智治

1区分館は1月28日、積善会館で4年ぶりの文化交流会を開催しました。子どもからお年寄りまで約120人が集まり、芸能発表を楽しみながら祝宴で盛り上がりました。

開会式に続き、威勢よく鏡開きを行って乾杯。芸能



飛び入りで演奏に参加

2区分館

笑顔PJ第3弾

分館長 蜂谷昌幸

今年も勤労感謝の日の11月23日、2区分会所で「笑顔を増やそうプロジェクト3」を開催しました。

「もういいかね」とお仲間と一緒にひと足早く来てくれた方々、イスに座って待つ間も話が弾んでいました。開演時間が近づくと次第に席も埋まり、話の輪が

の時間を楽しんでいただけたことが何よりでした。反省を糧に、来年度も楽しい活動をしていきます。よろしくお願いします。



芸能発表を楽しみながら祝宴

3区分館

ペタンク大会

分館長 坂牧博夫

11月26日、3区分館行事のペタンク大会が4年ぶりに高森ドームで開催されました。

当初、常会対抗として参加募集しましたが、参加者が18人のみだったので1チーム3人で6チームをつくり、3チーム1リーグの2リーグ制で2試合を行い、その後、各リーグの1位、2位、3位同士の試合を行い、1位と6位の順位を決定しました。



抽選で選ばれたチームで和気あいあい

賞品は全員に行き渡るように商品券としました。休憩時には温かいお茶やおやつを提供し、帰りにおにぎりを渡し解散となりました。

今回はチーム編成を抽選で決めたので初対面の方が多かったのですが、みんな違った面で和気あいあいと行っていたので、良かったと思います。

初めて参加された方に「大変楽しく感動した」と言われ安心しましたが、集う力は災害時や防災関係にもつながりますので、次回は参加人数をもっと増やせるように考えなければと思いました。

そこかしこで生まれていました。

今回は大阪より満福亭だんごさんをお呼びしました。だんごさんの落語に笑い、音大出のだんごさんの歌に聴き入りました。松島自治会長のオカリナとの共演もすばらしく、芦部公民館長さんや子どもたちに演奏に飛び入り参加していただき盛り上げてもらいました。最後に「ふるさと」を全員で歌い、しつとりと一

4区分館

元旦マラソン

分館長 玉置淳一

大晦日は雨で天候が心配されましたが、やや風があったものの晴れの天気に恵まれ、4区の元旦マラソン・ウォーキングが開催されました。暖冬の影響で、1月としてはとても暖かい朝でした。

漸進会主催で今回で33回目を数える4区恒例の行事です。新型コロナウイルスの影響で3年前は中止になりましたが、一昨年と昨年は感染防止のため参加対象を4区の区民に制限して行いました。他の行事が軒並み中止される中で行われてきた元旦マラソン・ウォーキングは4区の貴重な交流の場となっています。

当日は関係者を含め小さな幼児から年配者まで52人の参加者がありました。4区生活センターを第1スタートとして萩山神社まで、参拝後に萩山神社前を第2スタートして夕映え道路経由で4区生活センターにいたる約3キロのコースを40

人が思い思いのペースで健脚を競いました。

競技後の閉会式では、順位順に参加者全員が今年の抱負を語り、豪華賞品が贈られ、笑顔がこぼれる大会となりました。



萩山神社に向かってスタート

5区分館

おやす次世代に

分館長 小川喜也

下市田5区のおやす作りは12月17日に5区会所で行われました。新型コロナウイルスは5類に移行しましたが、4年ぶりということと、インフルエンザの流行もあり、どのくらい参加者が来てくれるのか心配しましたが、小中学生とご家族、

さらには昔からの伝統を伝えようと歴代の元自治会役員や住民の皆さんが参加してくれました。

コロナ前までは中学生が次を担う小学生に教えてくれていたが、4年という空白で一からおやす作りを覚え、次に伝えるというスタートとなりました。

初めに藤田自治会長の手本にならない練習用のワラでやり方を覚え、形が整った頃に本番用のすぐったワラで徐々にですが立派なおやすが出来ようになりました。そしてしめ縄、幣束を取り付け、松の小枝を挿して完成となりました。



自分たちで作ったおやすを手

6区分館

正月飾り手作り

分館長 中垣裕彦

当日一緒に指導してくださった方々と子ども達の交流は、次の世代に受け継ぐ機会になったと思います。

正月に飾られたおやすは1月7日の早朝、ほんやりの炎とともに、強風の中、今年の干支である竜のように天に向かって上っていき

ました。

12月10日、出砂原地区館の駐車場で毎年恒例のおやす作りを行いました。寒い中、小中学生15人が集まり、地元の先生を講師にお招きし、おやす作りの体験をしました。

おやすは南信州地域に古くから伝わる伝統の正月飾りで、この時期になるとホームセンター等の店頭でよく見かけますが、実際に作ってみると細かな技術が必要で、代々伝わる作り方を教えていただくことの大切さを感じました。

最初はぎこちなかった。



子どもたちも次第に慣れて

た子どもたちの手つきも次第に慣れてきて、1時間も経つ頃には大人たちが見ていなくても自分たちで作り込めるようになっていました。手作りのおやすは、やはり風情があつて、自ら作った「オンリーワン」のおやすを大切に持ち帰る子どもたちの姿が印象的でした。

また、当地区独自のものとして「ミニ門松」作りも教えていただきました。手のひらサイズのミニ門松は、テーブルの上などを彩るかわいらしい置物となり、各自自宅にお土産として持ち帰りました。

いよいよ年末が近づいてきたことを感じさせる冬の一日となりました。

各区育成会 どんど焼き

4区 燃える火に幸せ願う 会長 井原 正治

コロナ禍が明け、人とのコミュニケーションが薄れかけている中、地域の方々と協力して、どんど焼きを実施できました。幸せな1年になるように、天高く燃え上がる火に願うばかりです。



前日早朝から櫓の作成を行い、高さ7mの立派な櫓が作成されました。点火は辰年生まれの小学生が行い、高く燃え上がる炎にあたりながら、世の中の平和と無病息災を祈りました。準備に協力して頂いた皆様ありがとうございました。

5区 世の中の平和祈る 会長 棚田 昭夫

6区 辰年の子が点火 会長 唐沢 恵里香

1月7日早朝より子どもたちと保護者、地域の皆様と門松集めをし、午前11時半に辰年の子どもたちで無事点火をして持ち寄った餅を焼き、1年間の無病息災を祈願しました。良い経験ができたと思います。



1区南 みんなの協力で 会長 上沼 久敏

コロナ禍を経て、どんど焼きが中止になることもありましたが、今年度無事にできたのはひとえに協力して下さった方々がいたからです。寒い中、手伝ってくれた子ども達、そして協力して下さいました方々、本当にありがとうございました。



2区 勢いよく燃え上がる 会長 北沢 治

1月6日、小中学生、保護者及び地域の皆様のご協力により見事に完成しました。翌7日の朝6時、中学3年生が点火し、勢いよく燃え上がりました。



3区 家族で餅焼き頑張る 会長 湯沢 隆弘

1月7日、3区のどんど焼きを下市田保育園にて行いました。前日準備に大人20人、小中学生40人ほどに協力いただき、当日は110人を超す参加がありました。各々持ち寄った餅や団子を焼いたり、家族で頑張る姿も見られました。



萩山郷土芸能保存会

春祭り獅子曳き従来の行程で

就任あいさつ

幹事長 三浦伊佐夫



12月より萩山郷土芸能保存会幹事長を務めることになりました。

萩山神社の春祭りに携わって今年で30年になります。この間、二百年祭、西暦2000年の春祭り、そして新型コロナでの春祭り

中止などがありました。そんな中、縮小の形ではありましたが、昨年は4年ぶりに獅子曳き、獅子舞、囃子屋台が繰り出し、祭りを

行いうことができました。幹事会としては一歩前進できたのかなと感じています。

そして今年は5年ぶりに通常の行程で行う計画を進めています。地区幹事を中心として準備を進めてまいります。自治会、公民館はじめ祭りにご協力いただく皆様方にはご苦労していただくわけですが、よろしく

お願いいたします。

長い歴史

と伝統を伝

承する郷土

芸能がまた

再びこの萩

の郷に帰っ

てくる喜び

を皆さんと

分かち合え

ればと思ひ

退任あいさつ

前幹事長 鎌倉 博

令和4年度萩山郷土芸能保存会の幹事長を務め、11月30日をもちまして任を満了いたしました。

昨年は2百年余り歴史ある萩山神社春祭りの獅子曳きを新型コロナ感染拡大防止対策を行った上で実施し、安養寺での宵祭りとは萩山神社へ向かう本祭りは従来の形で開催することができました。

幹事長の行いが悪かったため2日間雨に見舞われましたが、幸い大きな事故もなく無事に奉納することが

新春お楽しみ会 多世代でゲーム

下市田支館は1月14日、区民会館で「新春お楽しみ会」を開催しました。園児からお年寄りまで約30人が参加し、思い思いに好きなゲームを楽しみました。

2日前に新型コロナウイルス医療警報が出されましたが、受付で体調チェックを行い予定通り開催。おしるこサー



思い思いにゲームを楽しむ

ビスもあり、小正月の楽しいひと時を過ごしました。

令和5年度 幹事のみなさん

でき、大変ありがたく思っています。地元自治会の皆様と保存会幹事、獅子部、囃子部の皆様のご協力があつてこそと感謝申し上げます。

拙文ではありますが、退任のあいさつとさせていただきます。

幹事長 三浦伊佐夫 3区
副幹事長 西村 芳夫 2区
同 中原 真樹 4区
会計幹事 壬生 清重 1区
副 同 上沼 太一 1区
備品幹事 立花 真亮 3区
副 同 木村 忍 5区

総務幹事 棚田 勝 4区
同 遠山 正広 5区
同 坂井 孝行 3区
同 岡村 良明 6区
獅子部
部長 宮入 正男 2区
副部長 市岡 義久 2区
同 川手 美幸 1区
獅子部
部長 竹村 進 5区
副部長 宮島 正樹 3区
同 木村 彰宏 4区
同 仲平 豊実 3区
獅子曳き部
部長 三浦 智 6区
副部長 林 俊一 2区
相談役 塩沢 基裕 2区
同 鎌倉 博 2区
本会計 池野 学 2区

編集後記

年末には支館三役、分館長・分館主事、支館部員で恒例の区民会館の大掃除。掃除の後、支館の活動のあり方について若干の意見交換を行いました。

令和5年度事業は2月10日の「町議会議員と区民の懇談会」で終了。3月は来年度の事業計画を考える時期になります。

わたしの作文 ぼくの作文



夢はプロ野球選手

小5 熊谷 優(4区)

ぼくには夢があります。それはプロ野球選手になることです。

野球をやってみたいと思ったきっかけは、保育園の頃からお父さんの夜間ソフトを観に行っていて、4区の人たちが楽しそうにプレーをしていたからです。ぼくも1年生から少年野球に入りました。自分で野球をやるようになって、勝

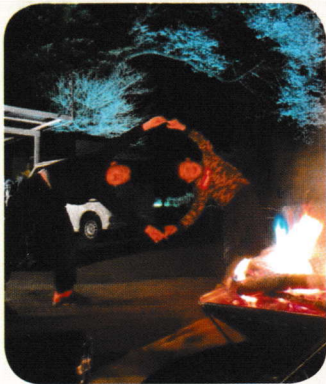
家族とBBQ最高

小6 後藤 昊樹(3区)

ぼくは家族とBBQ(バーベキュー)をするのが大好きです。

好きな理由は、外でみんなとワイワイ食事ができることです。外で食べるご飯は、家の中で食べるご飯よりもずっと美味しいと感じます。

みんなで好きなものを焼いて、毎回違ったメニューを楽しむことができますし、



協力して食材を準備したり、火を起こしたり、肉を焼いたりします。みんなで協力して作った食事は格別に美味しいです。ぼくは家族と過ごすBBQが最高に幸せで大好きな時間です。

つことの喜びを知りました。ぼくたちが勝つと、応援してくれている人たちも喜んでくれるので、次も勝ちたいと思いました。いつかプロ野球選手になって、もっとたくさんの人に喜んでもらえるプレーをしたいです。



小中学生の絵で フェンスに彩り

JRガイドウェイ作業所

JR東海は下市田河原のリニアガイドウェイ作業所の外壁に小中学生が描いた絵をプリントし、12月9日に子どもたちや関係者を招いて除幕式を行いました。殺風景な壁面に彩りをと町などがJRに働きかけて実現。高森南小4年生、高森北小5年生、高森中美術部員がリニア開通後の高森をイメージして絵を描き、

なわとび特訓中

小5 山田 葵(5区)

私が最近がんばっていることはなわとびです。

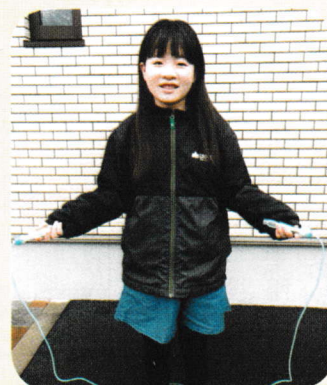
なぜなわとびかというと、学校の授業で今、なわとびをしているからです。私はそこでどうしても跳べるようにしたいわざが2つあります。

1つは、二重跳びを30回以上跳ぶことです。学校では10〜20回しか跳べなかったため、記録を伸ばしたい

です。

2つ目は、はやぶさです。はやぶさはできる人が少ないので、できるようにしたいと思って特訓もしています。

いろいろなわざができるようになりたいです。



除幕式に参加した子どもたち



自分や友達の描いた絵を見つけて

があり、今後さらに子どもたちの絵を増やしていくことも考えられています。